

繊維素材メーカーのサンコロナ小田（本店・石川県小松市）は、自社の炭素繊維複合材料「フレックスカーボン」で一人乗りの移動機器であるパーソナルモビリティ分野に参入する。ベンチャー企業のフューチャー（東京）が新型コロナウイルス禍での新たな移動手段として開発した一人乗り電動三輪車の車体向けにフレックスカーボンを供給し、量産化を後押しする。

（中平雄大）

炭素繊維は樹脂と組み合わせた炭素繊維強化プラスチック（CFRP）を成形加工することで、鉄の四分の一の軽さながら十倍の強さを持つ先端素材となる。CFRPには熱硬化性と熱可塑性があり、フレックスカーボンは熱で軟らかくして複雑な形状にプレス成形できる熱可塑性のシート材。これまでにアシックス（神戸市）のスパイクピンのない陸上用シューズや、大和ハウス工業（大阪市）などと開発した動作を補助する軽量アシストスーツに

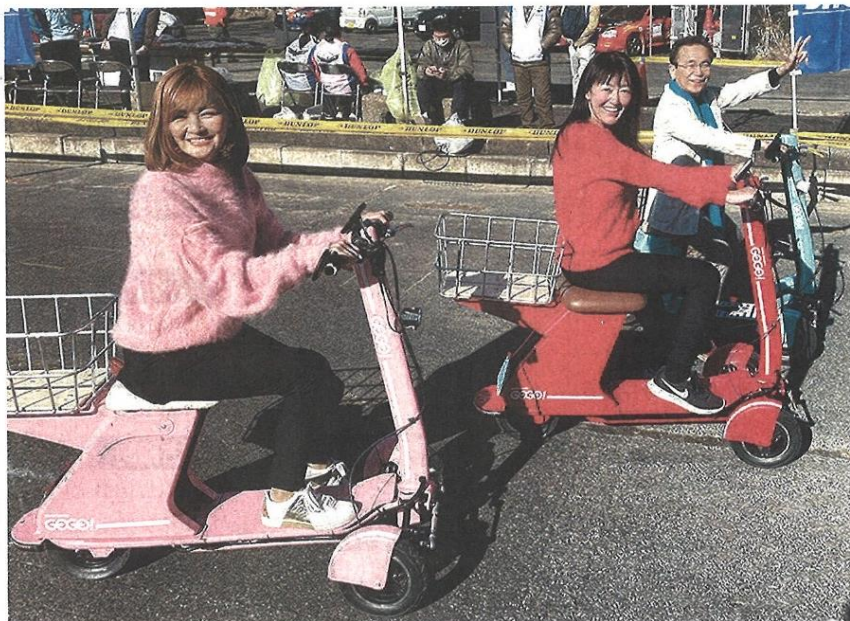
電動三輪量産化 炭素繊維でGO

サンコロナ小田 供給乗り出す

軽くて強く



成形も自在



①サンコロナ小田が開発した「フレックスカーボン」
②石川県小松市で
③フューチャーの電動三輪車（金属製）に乗る井原慶子CEO④とサンコロナ小田の小田外喜夫社長⑤「岐阜県恵那市で（フューチャー提供）」

も採用された。フューチャーの最高経営責任者（CEO）でカーレースの顔も持つ井原慶子さんはコロナ禍の昨春、地元愛知県春日井市で「密になる公共交通機関での移動が怖い」「デリバリー用の移動手段がほしい」といった住民の声を受けて電動三輪車の開発に着手。レースの知見を生かして自転車並みに軽い車体の開発を実現した。約二十二キロの金属製タイプとCFRPを使用した約十八キロの上位モデル

の二種を一月から販売。三重県内の工場で月に計百台を生産する態勢も整えた。しかし現在の上位モデルのCFRPは熱硬化性のため成形に時間や手間がかかるとのことだ。普及には年間一万台の生産が必要と考え、車体の金型さえ造ればプレス成形で量産できるフレックスカーボンに着目した。サンコロナ小田と共同で年内に試作品の完成と販売を目指している。

電動三輪車の用途や地域の道路事情もさまざま。井原さんは「フレックスカーボンを使うことで車体を自由にデザインすることもできる。カーボンニュートラル（温室効果ガス排出実質ゼロ）が求められる新しい時代の移動手段として提案していきたい」と話す。

サンコロナ小田はフレックスカーボンの増産に向けて本店敷地内に建設中の生産拠点を五月にも本格稼働させる予定。小田外喜夫社長は「身近な移動機器での活用実績を積み上げて、自動車領域にも広がってほしい」と意気込む。